

医学教育分野別評価

九州大学医学部医学科 年次報告書

(2023年度)

目次

1. 使命と学修成果.....	3
2. 教育プログラム	11
3. 学生の評価	27
4. 学生	32
5. 教員.....	39
6. 教育資源	43
7. 教育プログラム評価.....	53
8. 統轄および管理運営.....	63
9. 継続的改良	71

医学教育分野別評価 九州大学医学部医学科 年次報告書 2022年度

- ・医学教育分野別評価の受審 2022(令和4)年度
- ・受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33
- ・本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.35

はじめに

本学医学部医学科は、2022年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、その後、2023年2月1日より7年間の認定期間が開始された。今回、指摘のあった事項を整理しながら改善活動を進めてきた。その活動内容を、評価基準日本版 Ver.2.35を基に、2022年度の年次報告書として提出する。また、本年次報告書に記載した内容は、受審後から2023年3月31日までの期間におけるものである。

1. 使命と学修成果

概評

九州大学教育憲章・学術憲章および基本理念に基づき、医学部医学科の使命と学修成果を策定し、明示している。「研究のすゝめ」を定め、公表している。

医学部医学科の使命と学修成果の策定には、教職員や学生代表が参加して実質的な議論を行うべきである。また、より広い教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。使命と学修成果を、大学関係者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に確実に周知すべきである。

1.1 使命

基本的水準： 適合

医学部は、

- 学部の使命を明示しなくてはならない。(B 1.1.1)
- 大学の構成者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を示さなくてはならない。(B 1.1.2)
- その使命のなかで医師を養成する目的と教育指針として以下の内容の概略を定めなくてはならない。
 - 学部教育としての専門的実践力(B 1.1.3)
 - 将来さまざまな医療の専門領域に進むための適切な基本(B 1.1.4)
 - 医師として定められた役割を担う能力(B 1.1.5)
 - 卒後の教育への準備(B 1.1.6)
 - 生涯学習への継続(B 1.1.7)
- 使命に、社会の保健・健康維持に対する要請、医療制度からの要請、およびその他の社会的責任を包含しなくてはならない。(B 1.1.8)

特記すべき良い点(特色)

- ・九州大学教育憲章・学術憲章および基本理念に基づき、2020年度に医学部医学科の使命を策定し、明示している。

改善のための助言

- ・ 医学部医学科の使命を、大学関係者ならびに医療と保健に関わる分野の関係者に確実に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 全教員対象の医学科・生命科学科FDにて医学部医学科使命を周知した。
- ・ 教育主任会議を新たに組織し、教務委員会の審議事項が全教員に周知されるようにした。
- ・ 医学部ホームページに使命と学修成果を公表するとともに、今回の自己点検評価報告書と外部評価報告書の結果を公表した。
- ・ 卒業時アンケートにて、使命と学修成果に関する意見を聴取し、概ね適切な内容であるとの結果に至った。

今後の計画

- ・ 周知する関係者の範囲を検討する。
- ・ 学生や関係者への周知の徹底と浸透をさらに図る。
- ・ カリキュラム委員会やプログラム評価委員会、教務委員会にて、使命と学修成果に関して定期的な見直しと検討を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料6: 医学部ホームページ公開画面
- ・ 資料7: 2022年度卒業時アンケート
- ・ 資料8: 九州大学医学部医学科・生命科学科教育主任会議に関する要項

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 使命に、以下の内容を包含すべきである。
 - 医学研究の達成(Q 1.1.1)
 - 国際的健康、医療の観点(Q 1.1.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 2018年度に「研究のすゝめ」を定め、公表している。
- ・ 2020年度に策定された使命には、医学研究の達成、国際的健康・医療の観点が包含されている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ MD-PhDコースについては定期的に説明会を開いていく。
- ・ 定期的に卒業後の進路、研究成果を検証することにより、これらのカリキュラムやコースの評価を行い、一層の改善を図る。
- ・ 国際的な保健・医療の視点を有する医師の育成に向けたカリキュラムを継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準: 適合

医学部は、

- 責任ある立場の教職員および管理運営者が、組織として自律性を持って教育施策を構築し、実施しなければならない。特に以下の内容を含まれなければならない。
 - カリキュラムの作成(B 1.2.1)
 - カリキュラムを実施するために配分された資源の活用(B 1.2.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの作成において、医学部医学科としてより高い自律性を持って、いわゆる教養教育を担当する基幹教育院とより積極的に連携を図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度の卒業時アンケートを実施し、プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会にて1年次の基幹教育における専攻教育の在り方について意見交換を行った。

- ・ 卒業時アンケートにて、教育資源の活用状況に関して意見を聴取し、自習室利用に関する課題が浮かび上がった。
- ・ 医学図書館の改修工事を行い(2022年8月リニューアルオープン)、課題となっていた自習室の充実を図った。

今後の計画

- ・ 基幹教育院との連携についての検討を開始する。
- ・ 今後さらに自習室の充実を図っていく。
- ・ 医学教育における内外の動向を踏まえて、カリキュラムの見直しを続けていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、以下について教員ならびに学生の教育・研究の自由を保障すべきである。

- 現行カリキュラムに関する検討(Q 1.2.1)
- カリキュラムを過剰にしない範囲で、特定の教育科目の教育向上のために最新の研究成果を探索し、利用すること(Q 1.2.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度の卒業時アンケートを実施し、プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会にて1年次の基幹教育における専攻教育の在り方について意見交換を行った。

今後の計画

- ・ 基幹教育院との連携についての検討を開始する。
- ・ プログラム評価委員会における学生からのフィードバックやアンケート等を踏まえて見直しと改善に努める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録

1.3 学修成果

基本的水準: 適合

医学部は、

- 以下の項目に関連して、学生が卒業時に発揮する能力を学修成果として明確にしなければならぬ。

- 卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度(B 1.3.1)
- 将来にどの医学専門領域にも進むことができる適切な基本(B 1.3.2)
- 保健医療機関での将来的な役割(B 1.3.3)
- 卒後研修(B 1.3.4)
- 生涯学習への意識と学修技能(B 1.3.5)
- 地域医療からの要請、医療制度からの要請、そして社会的責任(B 1.3.6)
- 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重した適切な行動をとることを確実に修得させなければならない。(B 1.3.7)
- 学修成果を周知しなくてはならない。(B 1.3.8)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学部医学科の使命に基づき、学修成果と学修目標が定められている。

改善のための助言

- ・ 学生が学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとることを行動規範等に明記して確実に修得させるべきである。
- ・ 学修成果をさらに周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 全教員対象の医学科・生命科学科FDにて九大医学科卒業時アウトカムと学修目標を周知した。
- ・ 2022年度より、全医学生に配布する「授業時間割」「臨床実習 I 学習の手引き」に九大医学科使命及び九大医学科卒業時アウトカムと学修目標、医学科ディプロマ・ポリシー、医学科カリキュラム・ポリシーを掲載した。
- ・ 教育主任会議を新たに組織し、教務委員会の審議事項が全教員に周知されるようにした。

今後の計画

- ・ 行動規範の内容検討と明記する場所の検討を行う。
- ・ 卒前教育で達成すべき基本的知識・技能・態度について、今後もカリキュラム委員会を中心として、社会の変化などに対応し、適宜修正検討を行う。
- ・ カリキュラム委員会及びプログラム評価委員会を中心として、卒業時アウトカムと学修目標、医学科ディプロマ・ポリシーの定期的な検証を行うことにより、関連カリキュラムの一層の改善を図る。
- ・ 新入生オリエンテーションを含む、教育の機会に繰り返し説明をして周知を図っていく。
- ・ 定期的に新任教員を対象としたFDを開催し、学修成果の周知を図る。
- ・ 学外の協力病院に対しても、事前説明会や、種々の協議会やFDで周知を図る。
- ・ 改定された医学教育モデル・コア・カリキュラムとの調整検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料8 : 九州大学医学部医学科・生命科学科教育主任会議に関する要項
- ・ 資料9 : 令和4年度授業時間割(抜粋)
- ・ 資料10 : 令和4年度臨床実習I学習の手引き(抜粋)

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 卒業時まで獲得しておく学修成果と卒業後研修における学修成果をそれぞれ明確にし、両者を関連づけるべきである。(Q 1.3.1)
- 医学研究に関して目指す学修成果を定めるべきである。(Q 1.3.2)
- 国際保健に関して目指す学修成果について注目すべきである。(Q 1.3.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 卒業時の学修成果をもとに卒業後研修終了時の学修成果を関連づけている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 卒前卒後の連携が進むよう、医学教育学講座教授が臨床教育研修センター長及び教務委員長を兼務することとした。

今後の計画

- ・ 教学に関する委員会を定期的開催する。
- ・ 卒前と卒業後でお互いのカリキュラムの内容に関して点検し、整合性が問題となった場合は適宜見直しを行う。
- ・ 研究室配属の改善、MD-PhDコースの説明会の充実、MD-PhDコースの学生に対する経済的支援などを通じ、医学研究者に求められる資質、医学研究の重要性ならびに卒業時の学修目標を周知していく。
- ・ 医学研究に関わる学修成果は長期の経過をもって評価されるべきものであるため、プログラム評価委員会を中心に上記の根拠となるデータの収集と解析、卒業後のキャリアパスの検証を行うことで、さらなる改善に務める。
- ・ 現在のカリキュラムを継続すると同時に、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会が中心となり、改善策について検討を開始する。

- ・ 国際保健に関する学修目標を必要に応じて見直す。
- ・ 海外人材交流や卒後の海外留学や国際保健機関への派遣状況を定期的な検証を行うことにより、関連カリキュラムの一層の改善を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料11 : 2022年度教務委員会委員名簿

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準: 部分的適合

医学部は、

- 使命と学修成果の策定には、教育に関わる主要な構成者が参画しなければならない。(B 1.4.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命と学修成果の策定には、学生代表を含む教育に関わる主要な構成者が参加し、実質的な議論を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会に参加している学生の代表性に関する議論をそれぞれの委員会で行った。各学年に委員が在籍していることから該当学年の意見収集の方法について議論した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会を定期開催し、使命と学修成果の定期的な再検討を行う。
- ・ 1年生、2年生、3年生のオリエンテーションで教学組織を紹介し、各学年にプログラム評価委員、カリキュラム委員がいることを紹介し、意見があれば委員を通して述べてもらうことを説明する。
- ・ 定期的な見直しや改訂を進める上で、更なる改善に必要な委員構成の更新などを議論し、柔軟に採り入れる体制を構築する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 使命と学修成果の策定には、広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取すべきである。(Q 1.4.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 使命と学修成果の策定には、外部の有識者、一般市民、行政関係者も参画するカリキュラム委員会およびプログラム評価委員会の意見を聴取している。

改善のための示唆

- ・ 使命と学修成果の策定には、より広い教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会に参加している学生の代表性に関する議論をそれぞれの委員会で行った。各学年に委員が在籍していることから該当学年の意見収集の方法について議論した。

今後の計画

- ・ 広い範囲の教育の関係者への意見を聴取する方法を検討する。
- ・ カリキュラム委員会及びプログラム評価委員会において、意見を聴取すべき適切な教育関係者を新規構成員として加えること等を検討してゆく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2. 教育プログラム

概評

学修成果基盤型教育を目指したカリキュラムが定められている。4週間の研究室配属の後、希望者にはフリークォーターでの研究継続を支援している。久山町研究が学生も参加するカリキュラムとして活用されていることや、出生コホート研究(エコチル調査)を教育に取り入れていることは評価できる。カリキュラム委員会には、教員と学生以外に研修医(卒業生)も参画している。

アクティブラーニングをより積極的に取り入れるべきである。生涯学習につながるカリキュラムを段階的かつ継続的に設けることが望まれる。基礎医学教育においては、臨床医学教育との連携および融合を体系化すべきである。行動科学の教育内容を定義し、体系的にカリキュラムを構築すべきである。基礎医学の水平的統合教育、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合教育を積極的に進めることが望まれる。すべての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めることが望まれる。診療参加型臨床実習をさらに充実すべきである。計画している主要な診療科での臨床実習期間を担保すべきである。すべての学生が地域医療実習を行うべきである。カリキュラムの立案と実施に関するカリキュラム委員会の責任と権限を明確にすべきである。

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを明確にしなければならない。(B 2.1.1)
- 学生が自分の学修過程に責任を持てるように、学修意欲を刺激し、準備を促して、学生を支援するようなカリキュラムや教授方法／学修方法を採用しなければならない。(B 2.1.2)
- カリキュラムは平等の原則に基づいて提供されなければならない。(B 2.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学修成果基盤型教育を目指したカリキュラムが定められている。
- ・ TBL形式による「診断学演習」、「臨床推論演習」が臨床実習前の教育として実施されている。

改善のための助言

- ・ アクティブラーニングをより積極的に取り入れるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会にて全国で医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定が行われたこと、その内容を今後のカリキュラム改革に活かしていくことの必要性が共有された。
- ・ 全教員対象の医学科・生命科学科FDにて九大医学部医学科使命、九大医学科卒業時アウトカムと学修目標、カリキュラム内容を周知した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会及び教務委員会でカリキュラムのあり方と内容について具体的に協議し、カリキュラムの改善を継続的に実施していく。
- ・ 九大医学科使命、九大医学科卒業時アウトカムと学修目標及びカリキュラム内容について、教員・学生へのさらなる周知を行う。
- ・ 臨床実習専門部会を中心として、診療参加型臨床実習が促進されるよう対応を協議する。
- ・ 学生が自分の学修過程に責任が持てるように自己の学修記録や到達度を確認できるeポートフォリオ(CC-EPOC)の構築を目指す。
- ・ 垂直統合水平統合について検討を進める。
- ・ 行動科学のカリキュラムの体系化を目指す。
- ・ 患者と接する機会を増やすカリキュラムを検討する。
- ・ 科目ごとの試験の回数と過密化について検討を開始する。
- ・ 基幹教育院との連携についてカリキュラム委員会で検討を行う。
- ・ 改定された医学教育モデル・コア・カリキュラムとの調整を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 生涯学習につながるカリキュラムを設定すべきである。(Q 2.1.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 初年次の「基幹教育セミナー」においてコミュニケーションの基礎を学んでいる。

改善のための示唆

- ・ 生涯学習につながるカリキュラムを段階的かつ継続的に設けることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命

科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 今後プログラム評価委員会を中心として、生涯学習につながるカリキュラムにするための改善策について分析し、カリキュラム委員会、教務委員会にて検討をすすめる。
- ・ 自己主導型学修による能動的学修の推進を検討し、必要な指導技能を修得するためのFDを行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2.2 科学的方法

基本的水準: 適合

医学部は、

- カリキュラムを通して以下を教育しなくてはならない。
 - 分析的で批判的思考を含む、科学的手法の原理(B 2.2.1)
 - 医学研究の手法 (B 2.2.2)
 - EBM(科学的根拠に基づく医療)(B 2.2.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 4週間の研究室配属の後、希望者にはフリークォーターでの研究継続を支援している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 2年次の生命医科学研究入門、3年次での研究室配属の内容をさらに充実させる。MD-PhDコースの出願方法や具体的なカリキュラムに加え、MD-PhDコース奨学金制度などの経済的な負担を軽減させるシステムに関しても医学生への周知を強化する。
- ・ また、経済的な負担以外の問題点がないか、実際にMD-PhDコースを選択した学生からMD-

PhDコースの現状での問題点を抽出し、その解決策についても検証する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- カリキュラムに大学独自の、あるいは先端的な研究の要素を含むべきである。
(Q 2.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 1961年に始まった久山町研究が学生も参加するカリキュラムとして活用されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 現在の活動継続を継続する。
- ・ MD-PhDコースの選択に関しては、MD-PhDコースを選択する学生が増えるような解決策がないか検証する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2.3 基礎医学

基本的水準： 適合

医学部は、

- 以下を理解するのに役立つよう、カリキュラムの中で基礎医学のあり方を定義し、実践しなければならない。
 - 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見(B 2.3.1)
 - 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な概念と手法(B 2.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 臨床医学を修得し応用するのに必要となる基本的な科学的知見、概念および手法が取り入れられている。

改善のための助言

- ・ 基礎医学教育においては、臨床医学教育との連携および融合を体系化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 今後、正常な形態および機能を理解した上での病的な状態を理解できるように、繰り返して個体を体系的・俯瞰的に把握できるような教育を計画する。
- ・ 内容に関しては、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会を中心としてカリキュラムの検討を随時行いながらPDCAサイクルを回し、教育効果改善を進める。
- ・ 大学院などで基礎研究を深く学んだ臨床系教員および臨床医学で診療に従事していた経験のある基礎系教員が、基礎と臨床の連携及び融合の重要性を理解した上で基礎医学の講義内容に臨床事項の内容を加味する、あるいは臨床系教員が講義の中で基礎医学的な内容を振り返るなどによって、両者の融合を検討する。
- ・ 日々進歩する臨床医学の診療現場に対応できるような基礎医学と臨床医学を統合したカリキュラムを策定する必要があり、講義・実習内容のチェックをプログラム評価委員会にて継続的に行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- 基礎医学のカリキュラムを以下に従って調整および修正すべきである。
 - 科学的、技術的、臨床的進歩(Q 2.3.1)
 - 現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されること(Q 2.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 出生コホート研究(エコチル調査)を教育に取り入れていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 日進月歩変化する医療現場の実情とニーズにあわせて、毎年の講義・実習内容を継続的に見直し、最新の情報を学生が系統的に学べるようにしていく。
- ・ 今後の社会や医療の変化の予想を踏まえて、各講義で教員がそれぞれの専門性の観点から社会システムの中で医師及び医科学研究者として必要な内容を適宜検討する。
- ・ 現在及び将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測される知識・情報を基礎医学の領域の中で適宜見直し、学修する機会の提供を継続的に検討していく。
- ・ 医学教育モデル・コア・カリキュラムが改定されたことから、九大医学科カリキュラムとの調整を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- カリキュラムに以下を定め、実践しなければならない。
 - 行動科学(B 2.4.1)
 - 社会医学(B 2.4.2)
 - 医療倫理学(B 2.4.3)
 - 医療法学(B 2.4.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 行動科学の教育内容を定義し、体系的にカリキュラムを構築すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ プログラム評価委員会を中心として、社会や学問上の変化等の分析を行い、教務委員会、カリキュラム委員会において「行動科学」を定義し、学修内容の見直しを図っていく。
- ・ プログラム評価委員会を中心として、行動科学全体を見渡した上で改善策について分析し、必要な要素を計画的に取り入れることについて、教務委員会、カリキュラム委員会において検討を開始する。
- ・ プログラム評価委員会を中心として、社会の変化、学問上の変化、法制度の改変等に合わせ改善点を抽出し、教務委員会、カリキュラム委員会において、社会医学のカリキュラムや学修内容について、定期的に見直しを図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを以下に従って調整および修正すべきである。
 - 科学的、技術的そして臨床的進歩(Q 2.4.1)
 - 現在および将来的に社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されること(Q 2.4.2)
 - 人口動態や文化の変化(Q 2.4.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 行動科学に関し、現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを考慮して、カリキュラムを調整することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ プログラム評価委員会を中心として、行動科学や社会医学、医療倫理学及び医療法学分野の教育内容に関する改善点を抽出し、教務委員会、カリキュラム委員会において、科学的、技術的そして臨床的進歩に応じたカリキュラムや教育内容になるように改編、調整していく。
- ・ 行動科学、社会医学、医療倫理学および医療法学に関しては、科学的、技術的そして臨床的進歩に加えて、常に社会的な要求も変化しており、プログラム評価委員会、教務委員会及びカリキュラム委員会が連携し、これらの変化に対応したカリキュラムや教育内容に改善していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2.5 臨床医学と技能

基本的水準： 部分的適合

医学部は、

- 臨床医学について、学生が以下を確実に実践できるようにカリキュラムを定め実践しなければならない。
 - 卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能の修得(B 2.5.1)
 - 臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つこと(B 2.5.2)
 - 健康増進と予防医学の体験(B 2.5.3)
- 重要な診療科で学修する時間を定めなくてはならない。(B 2.5.4)
- 患者安全に配慮した臨床実習を構築しなくてはならない。(B 2.5.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 臨床現場において患者と接する実習を68週に拡張している。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習をさらに充実すべきである。
- ・ 計画している主要な診療科での臨床実習期間を担保すべきである。健康増進と予防医学を十分に体験させるべきである。
- ・ すべての学生が地域医療実習を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度から臨床実習を68週に拡張し、期間の充実を図っている。
- ・ 医学教育IR室にて臨床実習に関する経験医行為や経験症候に関する解析を開始した。

今後の計画

- ・ 学年進行で臨床実習期間が拡大していくため、学生や指導医が混乱しないよう十分に周知し、臨床実習に発展できるようモニタしていく。
- ・ 拡張した実習をさらに診療参加型になるよう検討を開始する。
- ・ 健康増進と予防医学を十分に体験させるための案を検討する。
- ・ 地域医療実習を2週間に延長する準備をする。
- ・ 今後卒前卒後のシームレスな実習・研修を想定し、CC-EPOCへの移行を進める。
- ・ 今後継続的な学修成果の分析をすすめていく。また、診療参加型実習が充実するようにFDなども検討する。
- ・ 診療参加型実習への充実を目指して学内外の指導医を対象としたFDを計画する。
- ・ 患者安全を確保できるシステム改善は常に求められる。継続的に現状の問題点を収集、解析しながら、医療安全管理部・グローバル感染症センターと連携しつつより良いシステム構築を検討している。
- ・ 6年次臨床実習Ⅱにおける医行為水準について改定を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料12: 臨床実習の週数変更について
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 臨床医学教育のカリキュラムを以下に従って調整、修正すべきである。
 - 科学、技術および臨床の進歩(Q 2.5.1)
 - 現在および、将来において社会や保健医療システムにおいて必要になると予測されること(Q 2.5.2)
- すべての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めていくべきである。(Q 2.5.3)
- 教育プログラムの進行に合わせ、さまざまな臨床技能教育が行われるように教育計画を構築すべきである。(Q 2.5.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ すべての学生が早期から患者と接触する機会を持ち、徐々に実際の患者診療への参画を深めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ シミュレーション教育の充実を図った。

今後の計画

- ・ 早期から患者と接触する機会の具体案を検討する。
- ・ コロナ禍で中止していた早期臨床体験実習の再開を目指す。
- ・ 各講義担当者が個々の教員の最先端の研究、臨床の進歩を講義、実習に加えることで学生に最新の知見を提供するように努めていく。
- ・ プログラム評価委員会を中心として、各科目の講義内容を把握し、講義において最新の進歩に関する内容が提供されているか等をチェックし、カリキュラム委員会にてより良いカリキュラムの作成を目指す。
- ・ 2020年度よりプログラム評価委員会、2021年度より医学教育IR室が組織され、改善するためのデータ収集と評価ができる体制が整ったので実質的な運用を図っていく。
- ・ 臨床技能到達度評価のためにCC-EPOCの導入を段階的に進める。
- ・ 今後の医学教育カリキュラムの改訂に合わせ、臨床技能の習得について、シミュレーション教

育等を充実させていく。

- ・ 臨床実習で学生が修得できている臨床技能についてデータを収集し、プログラム評価委員会、医学教育IR室を中心として評価し、改善策を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料14 : 令和4年度活動内容報告~シミュレータ活用教育WG

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準: 部分的適合

医学部は、

- 基礎医学、行動科学、社会医学および臨床医学を適切な関連と配分で構成し、教育範囲、教育内容、教育科目の実施順序を明示しなくてはならない。(B 2.6.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ いわゆる教養教育を担当する基幹教育院と連携をとって医学教育プログラムを構成すべきである。
- ・ 行動科学のカリキュラムを体系的に構築し、基礎医学、社会医学および臨床医学と適切な関連と配分で構成すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 2022年度の卒業時アンケートの結果から、プログラム委員会またプログラム評価委員会にて1年次の基幹教育における専攻教育の在り方について意見交換を行った。

今後の計画

- ・ 基幹教育院との連携についての検討を開始する。
- ・ 年次進行でこれらを進めていくなかで、教育範囲、教育内容、実施順序が適正であるかの検証を継続的に行う。
- ・ 「行動科学」についての配分と順序の検討を行う。
- ・ 今後の医学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に合わせ、科目の構成、教育内容、教育範囲の設定・確認を行っていくとともに、各科目の内容、増減や順序を継続的にカリキュラム委

員会及び教務委員会で継続的に審議する。

- ・ 各科目の評価は原則的に試験によるが、試験・出席の扱いが科目間によって統一されておらず、極力格差が生じないように見直しを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、カリキュラムで以下のことを確実に実施すべきである。

- 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合(Q 2.6.1)
- 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合(Q 2.6.2)
- 教育プログラムとして、中核となる必修科目だけでなく、選択科目も、必修科目との配分を考慮して設定すること(Q 2.6.3)
- 補完医療との接点を持つこと(Q 2.6.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基礎医学の水平的統合教育、基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合教育を積極的に進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会を中心として水平的、垂直的統合をどのように進めるか検討を開始する。
- ・ 特に基礎医学においては学問体系に即した学修を施行しているため、常時医学教育モデル・コア・カリキュラムにより点検を行いながら、科目間で密接な連携を図り教授すべき内容に漏れがないように努めていく。
- ・ 多診療科を包括する内容を取り扱う臨床医学においても教員間で同様の取り組みを行っている。
- ・ 教員の多くはそれぞれの学問領域の縦断的、水平的統合の必要性は十分に理解しているが、各科目世話人と協議し、基礎医学、臨床医学等の統合が可能か検討を開始する。
- ・ 本邦においては実地臨床で漢方を利用するケースも増えており、漢方診療に長けた教員(上

記教員)を中心に、漢方に関する教育の強化を考えていく。また、鍼灸や欧米などグローバルに需要の高いリラクゼーションやマッサージなどの他の補完医療に関しても現況を確認したうえで、講義提供の可能性を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1:医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2:第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3:第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4:第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5:第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

2.7 教育プログラム管理

基本的水準: 部分的適合

医学部は、

- 学修成果を達成するために、学長・医学部長など教育の責任者の下で、教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つカリキュラム委員会を設置しなくてはならない。(B 2.7.1)
- カリキュラム委員会の構成委員には、教員と学生の代表を含まなくてはならない。(B 2.7.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ カリキュラムの立案と実施に関するカリキュラム委員会の責任と権限を明確にすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 教学組織について改定した。
- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会に参画する各学年代表学生委員を中心としてどのように意見を学生から集約するかについてそれぞれの委員会で議論した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会の責任と権限を検討する。
- ・ カリキュラム委員会を定期開催し、PDCAサイクルを回していく。
- ・ 教員と学生の意見が十分カリキュラム委員会に反映されるよう、構成員の選出方法や委員の数について検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2:第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3:第6回カリキュラム委員会議事録

- 資料15: 教学組織図 PDCAサイクル

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- カリキュラム委員会を中心にして、教育カリキュラムの改善を計画し、実施すべきである。(Q 2.7.1)
- カリキュラム委員会に教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むべきである。(Q 2.7.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ カリキュラム委員会には、教員と学生以外に研修医(卒業生)も参画している。

改善のための示唆

- ・ 2020年度末に発足したカリキュラム委員会を実質化して、教育カリキュラムの改善を計画し、実施することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会に参画する各学年代表学生委員を中心としてどのように意見を学生から集約するかについてそれぞれの委員会で議論した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会を定期開催し、PDCAサイクルを回していく。
- ・ 抜本的なカリキュラム改編が必要とされる場合には、カリキュラム委員会がこれを提案し、教務委員会と連携しカリキュラムの再編を進める。
- ・ 多様な教育関係者の参画について、引き続き検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準: 適合

医学部は、

- 卒前教育と卒後の教育・臨床実践との間の連携を適切に行われなければならない。(B 2.8.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育学講座教授が臨床教育研修センター長を兼務し、教務委員会副委員長に就任して、卒前・卒後教育の連携が図られている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 卒前卒後の連携が進むよう、医学教育学講座教授が臨床教育研修センター長及び教務委員長を兼務することとした。

今後の計画

- ・ CC-EPOCの導入により学修者評価の統一を通して、卒前卒後の教育・臨床実践の連携を進めていく。
- ・ 引き続き、地域で実習を指導いただいた先生方(臨床教授など)や医療スタッフと意見交換を継続し、卒前教育と卒後教育の連携強化を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料11:2022年度教務委員会委員名簿

質的向上のための水準：部分的適合

医学部は、

- カリキュラム委員会を通じて以下のことを確実に行うべきである。
 - 卒業生が将来働く環境からの情報を得て、教育プログラムを適切に改良すること(Q 2.8.1)
 - 教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れること(Q 2.8.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ カリキュラム委員会には、教学関係者に加えて、医師会および行政の関係者、一般市民も委員として参画している。
- ・ 地域医療実習施設との実習施設研修会や地域医療実習報告会を通じて、情報を得ている。

改善のための示唆

- ・ カリキュラム委員会を中心として、地域や社会の意見を取り入れながらカリキュラムの改良を着実に進めていくことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度の卒業時アンケートを実施し、プログラム評価委員会またカリキュラム委員会にて1年次の基幹教育における専攻教育の在り方について意見交換を行った。
- ・ 卒業生からの評価や意見を収集するために、卒業後も使用するメールアドレスについて収集した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会においてカリキュラムの改善について継続的な検討を行う。
- ・ 地域や社会の意見を取り入れる手段の検討を開始する。

- ・ カリキュラム委員会を中心として、地域や社会の意見を取り入れながらカリキュラムの改良を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧

3. 学生の評価

概評

卒業時アウトカム、学修目標、マイルストーン、各期評価ブループリントが整備され、それに基づいて評価が行われている。臨床実習でmini-CEXやSEAを用いて学修を促進する評価を実施している。

知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。評価が出題者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。目標とする学修成果と教育方法に整合した評価方法を採用すべきである。教員および学生が卒業時アウトカムと学修目標を理解した上で、学修成果を学生が達成していることを保証する評価を実践すべきである。学生の学修を促進することができるように試験問題や正答を含め、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。形成的評価と総括的評価が適切な比重となるよう全体の検討を進め、方針を決定して実践すべきである。基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定め、統合的評価などの導入を検討することにより試験の過密化を低減することが望まれる。

3.1 評価方法

基本的水準： 部分的適合

医学部は、

- 学生の評価について、原理、方法および実施を明確にし、開示しなくてはならない。開示すべき内容には、合格基準、進級基準、および追再試の回数が含まれる。(B 3.1.1)
- 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施しなくてはならない。(B 3.1.2)
- ささまざまな評価方法と形式を、それぞれの評価有用性に合わせて活用しなくてはならない。(B 3.1.3)
- 評価方法および結果に利益相反が生じないようにしなくてはならない。(B 3.1.4)
- 評価が外部の専門家によって精密に吟味されなくてはならない。(B 3.1.5)
- 評価結果に対して疑義申し立て制度を用いなければならない。(B 3.1.6)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 卒業時アウトカム、学修目標、マイルストーン、各期(導入期、基礎・発展期、統合期)評価ブループリントが整備され、それに基づいて評価が行われている。

改善のための助言

- ・ 知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
- ・ 臨床実習においては、360度評価などの態度評価を確実に実施すべきである。
- ・ 各期評価ブループリントに沿って妥当性の高い方法で評価を行うべきである。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないようにすべきである。
- ・ 評価が出題者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大

医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

- ・ 医学教育IR室にて、評価の妥当性を担保するためモニタリングプランの作成を開始した。

今後の計画

- ・ 共用試験 (Pre-CC OSCE、CBT、Post-CC OSCE) の公的化に対応する。
- ・ 評価方法および結果に利益相反が生じないようにするための方針について検討する。
- ・ 評価が出題者以外の専門家によって精密に吟味されるための方針を検討する。(教務)
- ・ 合格基準、進級基準、追再試の回数などを、必要に応じて見直していく。
- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会、教務委員会を中心に、定期的に学生評価について見直していく。
- ・ マイルストーンの周知活用を図っていく。
- ・ 臨床実習の評価について、eポートフォリオとして、CC-EPOCの導入を図る。その際、九大医学科卒業時アウトカムと学修目標に合わせて各科共通評価表に態度に関する評価を入れて整合性を図っていく。
- ・ カリキュラム委員会、教務委員会を中心として九大医学科卒業時アウトカムと学修目標に沿った評価について定期的に見直しを行う。
- ・ 「VI. チーム医療」の評価のため360度評価や、「III. 診療技能」、「IV. 科学的探究心」の評価のためCase based discussion評価導入を検討する。
- ・ 学生の親族が教員の場合の取り決めなど、利益相反が生じることを想定し、対応策の検討を開始する。
- ・ 疑義申し立てがあった場合の教務委員会の対応手順に関する検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料17 : 医学教育IR室モニタリングプラン

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示すべきである。(Q 3.1.1)
- 必要に合わせて新しい評価方法を導入すべきである。(Q 3.1.2)
- 外部評価者の活用を進めるべきである。(Q 3.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。外部評価者の活用を進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 医学教育IR室にて教学データの収集を開始した。
- ・ 医学教育IR室にて、評価の妥当性を担保するためモニタリングプランの作成を開始した。

今後の計画

- ・ ブループリントとそれぞれの評価方法が適切かどうか定期的に確認する。
- ・ 外部評価者の活用をどう進めるか検討する。
- ・ 今後、解析している入学時の成績やCBTの成績、Pre-CC OSCEの成績、卒業試験、医師国家試験の相関以外にも、各授業間の成績の相関、Post-CC OSCEなどとの相関を検証していく。
- ・ 九大医学科卒業時アウトカムと学修目標に沿った妥当な評価としてeポートフォリオ構築を進めていく。
- ・ より長期的な観点からIR部門を軌道にのせ、九大医学科卒業時アウトカムと学修目標の到達度評価のための妥当性と信頼性の担保された評価方法を検討していく。
- ・ 統合期におけるWork based assessmentとしてのeポートフォリオの整備と卒前卒後のシームレスな評価のためにCC-EPOCを導入する。
- ・ 「II.医学知識」の形成的評価のためのCase based discussionによる評価、また、「VI.チーム医療」を形成的及び総括的に評価するために360度評価の導入を検討する。ログブック(経験手技・検査記録、経験症例、経験症候記録)を確実に行うように周知徹底を図る。
- ・ 九大医学科卒業時アウトカムを包括的に評価できるよう、モニタリングプランを精緻化させる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料13:令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料17:医学教育IR室モニタリングプラン

3.2 評価と学修との関連

基本的水準: 部分的適合

医学部は、

- 評価の原理、方法を用いて以下を実現する評価を実践しなくてはならない。
- 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価である。(B 3.2.1)
- 目標とする学修成果を学生が達成していることを保証する評価である。(B 3.2.2)
- 学生の学修を促進する評価である。(B 3.2.3)
- 形成的評価と総括的評価の適切な比重により、学生の学修と教育進度の判定の指針となる評価である。(B 3.2.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 臨床実習で、mini-CEXやSEAを用いて学修を促進する評価を実施している。

改善のための助言

- ・ 目標とする学修成果と教育方法に整合した評価方法を採用すべきである。
- ・ 教員および学生が卒業時アウトカムと学修目標を理解した上で、学修成果を学生が達

成していることを保証する評価を実践すべきである。

- ・ 学生の学修を促進することができるように試験問題や正答などのフィードバックを行うべきである。
- ・ 形成的評価と総括的評価が適切な比重となるよう全体の検討を進め、方針を決定して実践すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 全教員対象の医学科・生命科学科FDにて九大医学科卒業時アウトカムと学修目標を周知した。
- ・ 医学教育IR室にて、学生の評価の妥当性を担保するためモニタリングプランの作成を開始した。

今後の計画

- ・ 教員と学生に学修目標の周知を図り、更なる理解を促す。
- ・ 授業評価アンケートの回収率向上のための方策を検討する。
- ・ 授業評価アンケートからの改善結果を学生にフィードバックする方策を検討する。
- ・ 学生の学修を促進することができるように試験問題や正答などのフィードバックのあり方を検討する。
- ・ 5,6年次の統合期に関して、9つのアウトカムと学修目標をより統合して評価できるよう、評価全体をCC-EPOCに移行していく。
- ・ CC-EPOCの中で、学生自身が現在の到達度を確認できるようシステムを構築する。
- ・ 臨床実習での形成的評価を電子記録として確認できるようCC-EPOCを導入する。
- ・ プログラム評価委員会を中心として、教育方法と評価方法の整合性が担保できているか、結果九大医学科卒業時アウトカムと学修目標に沿って学生の能力評価できているかを定期的に検討する。
- ・ 授業評価アンケートの結果や、学生が参画するプログラム評価委員会での議論を通じて、学修促進のための評価のあり方を検討する。
- ・ 各授業の形成的評価と総括的評価の内容について調査し、適切なバランスについて検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料13 : 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料17 : 医学教育IR室モニタリングプラン

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定めるべきである。(Q 3.2.1)
- 学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うべきである。(Q 3.2.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 基本的知識の修得と統合的学修を促進するために、カリキュラム(教育)単位ごとに試験の回数と方法(特性)を適切に定め、総合的評価などの導入を検討することにより特定の学年における過密化を低減することが望まれる。
- ・ すべての学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ すべての学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックのあり方について検討を開始する。
- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会を軌道にのせ、それぞれの授業ごとの評価法について情報を集約しながら、カリキュラムの中での試験の回数と方法について見直しを行う。
- ・ 試験成績に関しどのような個別フィードバックができるか検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

4. 学生

概評

修学相談員や担任教員による学生支援が実施されている。

入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。地域や社会からの健康に対する要請に合うように、入学者の資質を定期的に見直すことが望まれる。学生の教育進度に基づいて学修上のカウンセリングをすべての学生に提供することが望まれる。その際、キャリアガイダンスとプランニングも含めることが望まれる。学生の代表が教学に関わる委員会に参加するにあたり、多くの学生の意見を集約できる方策を構築すべきである。使命の策定、教育プログラムの管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

医学部は、

- 学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない。(B 4.1.1)
- 身体に不自由がある学生の入学について、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.2)
- 国内外の他の学部や機関からの学生の転編入については、方針を定めて対応しなければならない。(B 4.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ アドミッション・ポリシーに基づき、入学試験に学力検査、調査書、志望理由書に加えて面接試験を導入している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 教務委員会にて授業に対して合理的配慮申請のあった案件につき対応を協議した。
- ・ 入学試験について合理的配慮のあった案件につき対応を行った。

今後の計画

- ・ 定期的に見直しが必要な医学科アドミッション・ポリシーについて、両委員会および教務委員会で継続的に検討する。
- ・ 医療や医学研究に関する社会的要請の変化や少子高齢化による人口構成の変化に柔軟に対処すべく、学生の選抜方針の見直しについて毎年議論を重ねていく。
- ・ インクルージョン支援推進室を中心にキャンパス内のバリアフリー化に向け、今後も改良点の調査を進め対応する。
- ・ 身体などに障害を有する学生の入学についてのあり方を定期的に、全学の委員会と連携しながら検討する。医学部構内のバリアフリー対応をさらに進めていく予定である。

- ・ 学士編入学については、一般入試の動向を十分に評価分析した上で引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料18:第2・3・5・8・9回教務委員会議事要旨
- ・ 資料19:障害等のある入学志願者について(ホームページ)

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 選抜と、医学部の使命、教育プログラムならびに卒業時に期待される能力との関連を述べるべきである。(Q 4.1.1)
- アドミッション・ポリシー(入学方針)を定期的に見直すべきである。(Q 4.1.2)
- 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用すべきである。(Q 4.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ カリキュラム委員会でアドミッション・ポリシーを見直す体制を構築している。

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 入学試験について合理的配慮のあった案件につき対応を行った。

今後の計画

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが可能かどうか、アドミッションセンターと相談する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料19:障害等のある入学志願者について(ホームページ)

4.2 学生の受け入れ

基本的水準: 適合

医学部は、

- 入学者数を明確にし、教育プログラムの全段階における教育能力と関連づけなければならない。(B 4.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 入学者数に対して十分な教育能力が確保されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 医学科の学生が、医学科カリキュラム・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシーに沿った教育ができるように、教員等の人的資源の配分を定期的に検証する。
- ・ 地域医療の実習を十分に行えるように、受け入れ機関、指導者の確保を継続する。
- ・ 入学者定員の変更やカリキュラムの変更に伴い、教員等人的資源を確保し、設備・施設・環境の適正な配分等を検討して、教育の質の維持、向上に努めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 他の教育関係者とも協議して入学者の数と資質を定期的に見直すべきである。そして、地域や社会からの健康に対する要請に合うように調整すべきである。(Q 4.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 地域や社会からの健康に対する要請に合うように、入学者の資質を定期的に見直すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 医学科の使命であり、社会からの要請である研究者育成への取り組みについては、MD-PhD

コースの入学者の確保に向けて他大学と情報交換を行い、説明会や研究室配属などの機会を活用し、支援の充実を図る。

- ・ 引き続き、九大医学科使命、地域や社会からの要請を考慮しつつ、地域から求められる医療に関する問題、卒業後の動向などの情報収集を継続して、入学者選抜の方法の改善を図っていく。
- ・ 入学者の資質を客観的に評価するために、個別面接において統一した評価表を用いているが、定期的に見直しを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録、
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準: 適合

医学部および大学は、

- 学生を対象とした学修支援やカウンセリングの制度を設けなければならない。(B 4.3.1)
- 社会的、経済的、および個人的事情に対応して学生を支援するプログラムを提供しなければならない。(B 4.3.2)
- 学生の支援に必要な資源を配分しなければならない。(B 4.3.3)
- カウンセリングと支援に関する守秘を保障しなければならない。(B 4.3.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 修学相談員や担任教員による学修上の支援が実施されている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ コロナ禍で担任教員との面談を中断していたが、令和5年度より面談を再開することを決定した。
- ・ 教務委員会からメンタルサポート等が必要な学生に対して修学相談員による面談を依頼した。

今後の計画

- ・ 成績不振者への対応には特に注力し、学年ごとに問題を拾い上げ、修学相談員と担任教員が迅速な対応を実施していく。
- ・ 支援を必要とする学生に速やかに提供するために、医学学生係が中心となって学生への周知を図り、相談しやすい体制を検討していく。

- ・ 経済的理由による学修への影響など実態の把握に努め、制度の改善を検討する。高度な障害を有した学生が入学した場合は、教務委員会で協議しインクルージョン支援推進室を中心に、資源の確保と履修方法に関して協議を行っていく。
- ・ 自習スペースの拡充など、学生への支援内容の向上に取り組んでいく。
- ・ 九大医学科独自の学生支援のための基金の充実や、多様な学修への対応スペースの確保に努めていく予定である。
- ・ 学生支援に職員の守秘に関する意識をさらに高めるため、個人情報保護に関する継続的な教育・研修を行っていく。
- ・ 社会規範や規則の改正に伴い、学生支援に職員の守秘に関する教育・研修のための FD・Staff Development(SD)などを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料20:第6・9回教務委員会議事要旨

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 学生の学修上の進捗に基づいて学習支援を行うべきである。(Q 4.3.1)
- 学修支援やカウンセリングには、キャリアガイダンスとプランニングも含めるべきである。(Q 4.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生の教育進捗に基づいて学修上のカウンセリングをすべての学生に提供することが望まれる。学修上のカウンセリングを提供するには、キャリアガイダンスとプランニングも含めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ コロナ禍で担任教員との面談を中断していたが、令和5年度より面談を再開することを決定した。

今後の計画

- ・ 修学上のカウンセリングを全ての学生にどのように進めるか検討を開始する。
- ・ キャリアガイダンスとプランニングについての内容の検討を開始する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料21:第9回教務委員会議事要旨

4.4 学生の参加

基本的水準： 部分的適合

医学部は、学生が以下の事項を審議する委員会に学生の代表として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行しなければならない。

- 使命の策定(B 4.4.1)
- 教育プログラムの策定(B 4.4.2)
- 教育プログラムの管理(B 4.4.3)
- 教育プログラムの評価(B 4.4.4)
- その他、学生に関する諸事項(B 4.4.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生の代表が教学に関わる委員会に参加するにあたり、多くの学生の意見を集約できる方策を構築すべきである。
- ・ 使命の策定、教育プログラムの管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会に参加している学生の代表性に関する議論をそれぞれの委員会で行った。各学年に委員が在籍していることから該当学年の意見収集の方法について議論した。

今後の計画

- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会を定期的開催する。
- ・ カリキュラム委員会、プログラム評価委員会以外にも、幅広い学生が使命の策定に参加できる仕組みについて検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- 学生の活動と学生組織を奨励すべきである。(Q 4.4.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生のボランティア活動等の地域・社会活動を支援している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 引き続き、現在までに整備された仕組みを活用して、学生による様々な活動やそのための学生組織の支援・奨励を進める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

5. 教員

概評

教員に期待される役割に基づいて選考基準を策定し、募集と選抜を行っている。

すべての教員はカリキュラム全体を十分に理解した上で、教育を行うべきである。教員の能力開発のための教員研修を充実させ、教授、准教授だけでなくすべての教員の参加を促すべきである。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準： 適合

医学部は、

- 教員の募集と選抜方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
 - 医学と医学以外の教員間のバランス、常勤および非常勤の教員間のバランス、教員と一般職員間のバランスを含め、適切にカリキュラムを実施するために求められる基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員のタイプ、責任、バランスを概説しなければならない。(B 5.1.1)
 - 教育、研究、診療の役割のバランスを含め、学術的、教育的、および臨床的な業績の判定水準を明示しなければならない。(B 5.1.2)
 - 基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の責任を明示し、その活動をモニタしなければならない。(B 5.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教員に期待される役割に基づいて選考基準を策定し、募集と選抜を行っている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 長期的な将来構想を念頭にじた計画的な教員配置を検討するための委員会を組織した(将来計画委員会)。

今後の計画

- ・ 教員間のバランス、教員選考は、医学科カリキュラム・ポリシーに沿うよう選抜方針を明確にし、教授会、将来計画委員会にて、透明性を担保したうえで引き続き教員配置を検討していく。
- ・ 各個人にはQ-RADeRSの教授による評価をフィードバックし、活動計画を見直していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料22: 九州大学大学院医学研究院、医学系学府及び医学部将来計画委員会内規

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 教員の募集および選抜の方針において、以下の評価基準を考慮すべきである。
 - その地域に固有の重大な問題を含め、医学部の使命との関連性(Q 5.1.1)
 - 経済的事項(Q 5.1.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 地域固有の重大な問題を地域医療にあると定めて、教員の募集および選抜を行っている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 長期的な将来構想を念頭にした計画的な教員配置を検討するための委員会を組織した(将来計画委員会)。

今後の計画

- ・ 九大医学科使命に照らしあわせて、地域医療への貢献、研究、教育のバランスを考慮しながら教員募集と選抜を引き続き行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料22: 九州大学大学院医学研究院、医学系学府及び医学部将来計画委員会内規

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準： 部分的適合

医学部は、

- 教員の活動と能力開発に関する方針を策定して履行しなければならない。その方針には以下が含まれる。
 - 教育、研究、診療の職務間のバランスを考慮する。(B 5.2.1)
 - 教育、研究、診療の活動における学術的業績の認識を行う。(B 5.2.2)
 - 診療と研究の活動が教育活動に活用されている。(B 5.2.3)
 - 個々の教員はカリキュラム全体を十分に理解しなければならない。(B 5.2.4)
 - 教員の研修、能力開発、支援、評価が含まれている。(B 5.2.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教員の各活動項目を詳細に網羅した教員活動進捗・報告システム「Q-RADeRS」を用いて教育、研究、診療のみならず社会貢献、国際連携、学内運営、研究資金獲得などの業績評価を行っている。

改善のための助言

- ・ すべての教員はカリキュラム全体を十分に理解した上で、教育を行うべきである。
- ・ 教員の能力開発のための教員研修を充実させ、教授、准教授だけでなくすべての教員の参加を促すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ また今年度の医学科・生命科学科FDは、教授、准教授のみならず全教員を対象として開催した。

今後の計画

- ・ Q-RADeRSの活用を維持しつつ、必要に応じて、各職域における教育、研究、診療に対する目標比重と実際の比重を比較し、改善策を検討する。
- ・ 教員の多様な活動を適切に評価できるよう、Q-RADeRSにおける項目・記載事項の随時改訂を行うとともに、教員に対し、適切な記載を行うよう定期的な呼びかけを行う。
- ・ 個々の教員に、カリキュラム全体を十分に理解してもらうための方策を継続的に検討していく。
- ・ 九州大学医学部医学科・生命科学科FDに関しては、参加者からのアンケートで今後やってほしい内容を毎回調査し次回の内容を検討しており、これを継続していく。
- ・ 新任教員や全教員を対象としたFDの開催を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料23: 令和4年度医学科生命科学科FD参加者名簿

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率を考慮すべきである。(Q 5.2.1)
- 教員の昇進の方針を策定して履行するべきである。(Q 5.2.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 常勤の教員に加えて非常勤講師や臨床教授等を配し、十分な教員数を確保している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 学生数と教員数の適切な比率の維持を念頭におき、継続して教員の効率的な配置を図る。
- ・ カリキュラムのそれぞれの構成に関連して教員と学生の比率を継続的に検討する
- ・ 現行の業績判定基準・判定方法を必要に応じて再評価、再検討を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

6. 教育資源

概評

教育実践の発展に合わせてシミュレータ機器を更新・拡充したことは評価できる。久山町研究を学生教育に役立てていることは評価できる。教育専門家へのアクセスが十分に実践されている。医学教育分野の専門知識を活用して若手指導医養成プログラム「Residents as Teachers (RaTs)」を運用していることは評価できる。

自習スペース、グループ学修室など学生が使用する施設をさらに充実すべきである。学生が実際に経験した症候・疾患分類を把握した上で、学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。プライマリ・ケアなどを経験できる臨床実習施設を確保すべきである。カリキュラム開発・教育技法および評価方法の開発における教育専門家の利用についての方針を具体的に策定すべきである。

6.1 施設・設備

基本的水準： 適合

医学部は、

- 教職員と学生のための施設・設備を十分に整備して、カリキュラムが適切に実施されることを保障しなければならない。(B 6.1.1)
- 教職員、学生、患者とその家族にとって安全な学修環境を確保しなければならない。(B 6.1.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ カリキュラム実施に必要な施設・設備が整備されている。

改善のための助言

- ・ 自習スペース、グループ学修室など学生が使用する施設をさらに充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 医学図書館が2022年8月リニューアルオープンし、学生自習室のスペース拡大が実現した。
- ・ 卒業時アンケートにて、教育資源の活用状況に関して意見を聴取し、自習室利用に関する課題が浮かび上がった。
- ・ 共用試験CBTが公的化されるにあたり、2つの試験室をモニタで接続する必要があり、対応計画を行った。

今後の計画

- ・ 自習スペース、グループ学修室など学生が使用する施設の検討を定期的に行う。
- ・ 学生の学修を促せるような自習室のスペース拡大については、予算措置を含めて学部と病院と話し合いを進めながら改善を図っていく。
- ・ 学生については、研究室配属や臨床実習中の有害物質、試料、微生物への暴露リスクにつ

いての教育のさらなる充実に努める。

- ・ 教職員の安全教育講習会等についてはeラーニングも活用し、個人の知識や意識のさらなる向上を図る。
- ・ CBTを確実に実施するためにPCサーバー環境の整備を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料7 : 2022年度卒業時アンケート
- ・ 資料24 : 医学図書館ホームページ
- ・ 資料25 : ITルームモニタ接続工事関連資料

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 教育実践の発展に合わせて施設・設備を定期的に更新、改修、拡充し、学修環境を改善すべきである。(Q 6.1.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教育実践の発展に合わせてシミュレータ機器を更新・拡充したことは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ シミュレータの利用が進むよう、医療系統合教育研究センターにシミュレータ教育活用WGを設置し医療系学部全体として整備を進めた。
- ・ 医学図書館が2022年8月リニューアルオープンし、学生自習室のスペース拡大が実現した。また、ICTインフラの整備も行った。
- ・ 組織学実習室の顕微鏡が老朽化していたため、3年計画で新規の顕微鏡(エビデント製品)に更新を図った。結果、授業の質が大幅に改善した。

今後の計画

- ・ 施設・設備充実に関する活動を継続していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料14 : 令和4年度活動内容報告～シミュレータ活用教育WG
- ・ 資料24 : 医学図書館ホームページ
- ・ 資料26 : 教育用生物顕微鏡の更新計画

6.2 臨床実習の資源

基本的水準： 部分的適合

医学部は、

- 学生が適切な臨床経験を積めるように以下の必要な資源を十分に確保しなければならない。
 - 患者数と疾患分類(B 6.2.1)
 - 臨床実習施設(B 6.2.2)
 - 学生の臨床実習の指導者(B 6.2.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 学生が実際に経験した症候・疾患分類を把握した上で、学生が適切な臨床経験を積めるように臨床実習施設を整備すべきである。
- ・ プライマリ・ケアなどを経験できる臨床実習施設を確保すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 医学教育IR室を定期開催し、臨床実習 I、II について2019～2021年の経験医行為数・経験症候を比較し確認した。

今後の計画

- ・ 学生が臨床経験を積めているかどうかデータを医学教育IR室が収集する。
- ・ 学生の経験症例をモニタするために、CC-EPOCの導入を進める。
- ・ 偏りのない学修機会を提供するための臨床実習施設を継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料13:令和4年度医学教育IR室年報

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善すべきである。(Q 6.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点で、臨床実習施設を評価、整備、改善することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ 地域医療実習報告会を実施し、地域医療機関の意見を聴取する。
- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかについて、患者満足度調査の中で、学生実習に対する評価項目を追加することを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

6.3 情報通信技術

基本的水準: 適合

医学部は、

- 適切な情報通信技術の有効かつ倫理的な利用と、それを評価する方針を策定して履行しなければならない。(B 6.3.1)
- インターネットやその他の電子媒体へのアクセスを確保しなければならない。(B 6.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 情報通信技術を全学体制で専門的かつ効率的に運用している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 卒業時アンケートを実施し、情報通信機器に関しては高い満足度であることを確認した。

今後の計画

- ・ 今後も、上記関係部署と連携しながらインターネットアクセス環境整備を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

資料7: 2022年度卒業時アンケート

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- 教員および学生が以下の事項についての既存のICTや新しく改良されたICTを効果的に活用できるようにすべきである。
 - 自己学習(Q 6.3.1)
 - 情報の入手(Q 6.3.2)
 - 患者管理(Q 6.3.3)
 - 保健医療提供システムにおける業務(Q 6.3.4)
- 担当患者のデータと医療情報システムを、学生が適切に利用できるようにすべきである。(Q 6.3.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生および教員が効率的に利用できるよう、情報通信技術に関して十分に配慮されている。

改善のための示唆

- ・ 自己学習に情報通信技術をより有効に活用することが望まれる。
- ・ 患者管理のための診療端末を学生が十分に利用できるよう、設置することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 卒業時アンケートを実施し、情報通信機器に関しては高い満足度であることを確認した。
- ・ 医学図書館が2022年8月リニューアルオープンし、学生自習室のスペース拡大が実現した。同時にICTインフラの整備も行った。

今後の計画

- ・ 電子カルテ端末の学生の利用について、病院と検討を開始する。
- ・ 全学の情報基盤研究開発センター、教材開発センター、病院地区の医療系統合教育研究センターが連携し、定期的な九州大学Moodle活用の講習会を開催し、活用普及を図っていく。
- ・ eラーニングコンテンツの更なる充実と学生、教員への広報をさらに強化する。
- ・ 全学とも連携しながら、情報アクセス環境の整備を継続する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料7 :2022年度卒業時アンケート
- ・ 資料24:医学図書館ホームページ

6.4 医学研究と学識

基本的水準： 適合

医学部は、

- 教育カリキュラムの作成においては、医学研究と学識を利用しなければならない。(B 6.4.1)
- 医学研究と教育が関連するように育む方針を策定し、履行しなければならない。(B 6.4.2)
- 研究施設・設備と研究の重要性を明示しなければならない。(B 6.4.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 久山町研究を学生の教育に役立てていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 2022年度カリキュラム改革を実施し、円滑に実施できるよう教務委員会で注意深くモニタした。

今後の計画

- ・ カリキュラムの更なる改善についてはカリキュラム委員会、プログラム評価委員会、教務委員会やFD等で議論を重ね、必要に応じてカリキュラムを変更する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料27: 第4・6・9回教務委員会議事要旨

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- 以下の事項について医学研究と教育との相互関係を担保すべきである。
 - 現行の教育への反映(Q 6.4.1)
 - 学生が医学研究や開発に携わることの奨励と準備(Q 6.4.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学研究と教育との相互関係を念頭においた学修期間を設定している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ ウォーミングアッププログラムを開催した。

今後の計画

- ・ 「研究室配属」は、医学研究院と附置研究所である生体防御医学研究所が連携して実施しているが、各分野の学生受け入れ人数を増やし、協力分野を増やすように取り組んでいく。
- ・ 研究活動の教育への反映について、教員や学生から情報を収集してプログラム評価委員会などで検討を行い今後の改善に努める。
- ・ 九大医学科学生を医科学研究者やリサーチマインドを有する医師に育てるための方策について、継続的に改善を図っていく。外部有識者や学生の参画するプログラム評価委員会の報告や提言なども参考に、カリキュラムの改善なども検討を行っていく。また、重要な課題については、FD等の機会で教員の意識統一を図りながら議論を行う。
- ・ 研究室ベースで学生への研究支援を行う。また、MD-PhDコースに関しては学生への周知のために説明会を開催し、本コースへの参加を促す。
- ・ ウォーミングアッププログラムの更なる充実を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料28 : 令和4年度ウォーミングアッププログラム

6.5 教育専門家

基本的水準: 適合

医学部は、

- 必要な時に教育専門家へアクセスできなければならない。(B 6.5.1)
- 以下の事項について、教育専門家の活用についての方針を策定し、履行しなければならない。
 - カリキュラム開発(B 6.5.2)
 - 教育技法および評価方法の開発(B 6.5.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教育専門家へのアクセスが十分に実践されている。

改善のための助言

- ・ カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発における教育専門家の利用についての方針を具体的に策定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会の外部有識者として教育専門家に参画いただいた。

今後の計画

- ・ カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発における教育専門家の利用についての方針を検討する。
- ・ 外部の医学教育専門家も加わっているプログラム評価委員会、カリキュラム委員会などでの意見も生かしながら、カリキュラム開発を行っていく。加えて、卒前・卒後教育に携わる教員などからの意見も反映させるように努めていく。
- ・ プログラム評価委員会で審議した事項を基に、教務委員会で教育技法や評価の方法についてさらに改善を図る。
- ・ 医学教育学講座が実施している、若手指導医養成プログラムであるResidents as Teachers (RaTs)フェローに学内の若手臨床教員も参加してもらい、教員全体の教育能力のさらなる向上をめざす。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 教職員の教育能力向上において学内外の教育専門家が実際に活用されていることを示すべきである。(Q 6.5.1)
- 教育評価や医学教育分野の研究における最新の専門知識に注意を払うべきである。(Q 6.5.2)
- 教職員は教育に関する研究を遂行すべきである。(Q 6.5.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育分野の専門知識を活用して若手指導医養成プログラム「Residents as Teachers (RaTs)」を運用していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会の外部有識者として教育専門家に参画いただいた。
- ・ 医学教育に精通した教員が教務委員会に委員として参画した。

今後の計画

- ・ 医学教育専門家が主導して質の高いFDやワークショップの開催や、学内外の教育専門家による医学教育セミナーの定期的な開催について継続的に検討していく。
- ・ 今後とも、学内外の教育専門家によるセミナーや講義を実施するが、オンデマンドやeラーニングによる受講者への利便性を図ることにより参加率をあげていくことを検討する。
- ・ 医学教育専門家の教育評価や医学教育分野の研究における最新の知見が学生指導に関与する教職員に効率的に共有されるように努める。
- ・ 国内外の教育評価や医学教育分野の研究における最新知見の収集に積極的に努めるとともに、他の教職員と情報共有を目的としたFDなどを開催する。
- ・ 最新知見の教育への活用については、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会などでも十分に議論を行っていく。
- ・ 教職員による医学教育研究の実施をさらに進める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録

6.6 教育の交流

基本的水準: 適合

医学部は、

- 以下の方針を策定して履行しなければならない。
 - 教職員と学生の交流を含め、国内外の他教育機関との協力(B 6.6.1)
 - 履修単位の互換(B 6.6.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 大学間協定および部局間協定による交流の実績がある。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ コロナ禍で中断していた海外での臨床実習について再開を決定し準備を進めた。

今後の計画

- ・ 教職員、学生の国内外の交流をさらに促していく。

- ・ 国内外の教育機関における履修単位の互換に関してさらに検討を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料29:第6回教務委員会議事要旨

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 適切な資源を提供して、教職員と学生の国内外の交流を促進すべきである。(Q 6.6.1)
- 教職員と学生の要請を考慮し、倫理原則を尊重して、交流が合目的に組織されることを保障すべきである。(Q 6.6.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 国外の交流にかかる費用について同窓会の補助を活用している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ コロナ禍で中断していた海外での臨床実習について再開を決定し準備をすすめた。

今後の計画

- ・ グローバル時代に対応可能な学生の育成に向けて、留学経験のある医師による講義などを通して学生のモチベーションを高める工夫をしていく。
基礎医学を学ぶ課程までは、生命科学科と医学科の学生が講義や実習でもなるべく混ざるようにグループ分けすることにより両学科の学生同士が刺激し合うようにして、交流をさらに促進していく。
- ・ 危機管理として、留学希望者に対して危機管理意識の徹底を促す。
- ・ 大学との交流協定の締結を増やす努力を今後とも増やしていく。加えて、現在の講座を窓口にした交流をより太い交流に進化させ、さらにその裾野を広げることを検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料29:第6回教務委員会議事要旨

7. 教育プログラム評価

概評

2020年度にプログラム評価委員会を、2021年度に医学教育IR室を設置し、カリキュラム委員会と連携し、教育プログラムを開発し、改良する体制を整えた。

教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。カリキュラムとその主な構成要素、学生や卒業生の実績などについてモニタし、教育プログラムを包括的に評価し、課題を特定して対応する仕組みを確立し、カリキュラムに確実に反映させるべきである。学生と教員から系統的に収集されたフィードバック情報を、医学教育IR室が収集して分析し、その結果に基づいてプログラム評価委員会で対応を検討すべきである。使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績に対するフィードバックを求めることが望まれる。

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準：部分的適合

医学部は、

- 教育プログラムの過程と成果を定期的にモニタするプログラムを設けなければならない。(B 7.1.1)
- 以下の事項について教育プログラムを評価する仕組みを確立し、実施しなければならない。
 - カリキュラムとその主な構成要素(B 7.1.2)
 - 学生の進歩(B 7.1.3)
 - 課題の特定と対応(B 7.1.4)
- 評価の結果をカリキュラムに確実に反映しなければならない。(B 7.1.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 2020年度にプログラム評価委員会を、2021年度に医学教育IR室を設置した。

改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を行う組織は、カリキュラムの立案と実施を行う組織とは独立しているべきである。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について、教育プログラムを評価し、課題を特定して対応する仕組みを確立し、カリキュラムに確実に反映させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 医学教育IR室会議を定期開催し、以下の活動を行った。
 - ① 現在収集可能な教学データの収集を開始した。
 - ② データ解析ができるよう、データの匿名化作業を開始した。(現在継続中)
 - ③ 医学科の教育データを扱うにあたり、ガイドラインの範囲内で業務に利用する際の学生同意取得について確認した。
 - ④ 診療参加型臨床実習の充実が課題であることから、臨床実習 I、II について2019～

2021年の経験医行為数を比較し確認した。

⑤ プログラム評価に関して、何をいつどのような目的でデータを取るのかに関するモニタリングプランの作成を開始した。

- ・ プログラム評価委員会を開始し、医学教育分野別評価の受審結果を基に、九大医学部医学科の課題を共有した。
- ・ 卒業生についてもデータが収集できるよう、今後も連絡がつくメールアドレスの提供を依頼した。
- ・ 今後計画的にIR活動が教学組織のPDCAサイクルに寄与できるように活動工程表を作成した。
- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会が有機的に機能し計画的に改善していくよう活動工程表を作成した。

今後の計画

- ・ 教務委員会にて教学関連委員会の活動状況が確認モニタできるよう活動報告を定期的に行う。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について医学教育IR室にて教学データを収集する。
- ・ 教学組織の在り方(プログラム評価委員会の独立性)について定期的に検討する。
- ・ プログラム評価委員会で課題を特定された課題に関して検討可能な事項について分析を開始する。
- ・ 医学教育IR室による量的尺度のみならず質的尺度による学修成果などのデータ解析結果なども活用しながらプログラム評価委員会を開催し、教務委員会に積極的な報告・提言を行う流れを定着させる。
- ・ 学生の進歩のモニタリングならびに可視化を目的に、各段階での評価データを医学教育IR室にて解析を行い、カリキュラム評価をより効果的、効率的に行うシステムを確立する。
- ・ プログラム評価委員会を維持し活動を活性化し、データの集約化を促進するとともに、必要に応じて委員の増員も検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料13:令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料16:令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧
- ・ 資料17:医学教育IR室モニタリングプラン
- ・ 資料30:医学教育IR室活動工程表
- ・ 資料31:プログラム評価委員会活動工程表
- ・ 資料32:カリキュラム委員会活動工程表

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 以下の事項を包括的に取り上げて、教育プログラムを定期的に評価すべきである。
 - 教育活動とそれが置かれた状況(Q 7.1.1)
 - カリキュラムの特定の構成要素(Q 7.1.2)
 - 長期間で獲得される学修成果(Q 7.1.3)
 - 社会的責任(Q 7.1.4)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教育活動とそれが置かれた状況、カリキュラムの特定の構成要素、社会的責任について、定期的に、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 定期的に包括的に評価するために医学教育IR室会議、プログラム評価委員会を開催した。
- ・ 長期的な学修成果をモニタするため卒業生のデータが得られるよう、今後も連絡がつくメールアドレスを収集した。

今後の計画

- ・ 定期的に、教育プログラムを包括的に評価するためにモニタプランの作成を開始し、精緻化を図る。
- ・ 医学教育IR室によるデータ解析なども活用し、プログラム評価委員会において教育活動の評価をさらに可視化し、教務委員会やカリキュラム委員会と連携してフィードバックを行ない、教務組織のPDCAサイクルにより組織的な改善に結び付ける。
- ・ 授業評価アンケート結果を医学教育IR室にて定量的に分析するとともに、プログラム評価委員会の報告・提言を介して、教務委員会でカリキュラムに反映させていく。
- ・ 構成要素が学修成果を達成するために適切かどうかを評価するためのモニタプランを精緻化していく。
- ・ 今後、プログラム評価委員会へ地域社会のニーズをさらに反映できるような委員の参画を検討し、また患者からのアンケートなどを通して社会的責任について評価する体制を中長期的に整備していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準： 部分的適合

医学部は、

- 教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応しなければならない。
(B 7.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 6年次学生を対象に卒業時アウトカムと学修目標、医学科使命についての卒業時アンケートを行った。

改善のための助言

- ・ 学生と教員から系統的に収集されたフィードバック情報を、医学教育IR室が収集して分析し、その結果に基づいてプログラム評価委員会で対応を検討すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 医学教育IR室会議を定期開催し、以下の活動を行った。
 - ① 現在収集可能な教学データの収集を開始した。
 - ② データ解析ができるよう、データの匿名化作業を開始した。(現在継続中)
 - ③ 医学科の教育データを扱うにあたり、ガイドラインの範囲内で業務に利用する際の学生同意取得について確認した。
 - ④ 診療参加型臨床実習の充実が課題であることから、臨床実習Ⅰ、Ⅱについて2019～2021年の経験医行為数を比較し確認した。
 - ⑤ プログラム評価に関して、何をいつどのような目的でデータを取るのかに関するモニタリングプランの作成を開始した。
- ・ プログラム評価委員会、カリキュラム委員会に参加している学生の代表性に関する議論をそれぞれの委員会で行った。各学年に委員が在籍していることから該当学年の意見収集の方法について議論した。
- ・ 2022年度の卒業時アンケートを実施し、医学教育IR室、プログラム評価委員会またカリキュラム委員会にて1年次の基幹教育における専攻教育の在り方、自習室の利用について意見が多く確認できた。

今後の計画

- ・ 学生と教員から系統的なフィードバックを得られるよう計画する。
- ・ プログラム評価委員会にて課題を抽出し、対応を検討し教務委員会に報告・提言する。
- ・ プログラム評価・改善活動の一貫として、学生からの臨床実習Ⅱのプログラム評価を各科にフィードバックすることを検討する。
- ・ 臨床実習アンケートの項目の項目妥当性を担保するため、複数の現場の臨床指導医の先生に項目を確認いただき、内容をブラッシュアップする。
- ・ 授業評価アンケートからの改善結果を学生にフィードバックする方策を検討する。
- ・ 6年生の卒業時アンケートを集計し、プログラム評価委員会で医学科としての改善の明確化を図る。

- ・ 1年生、2年生、3年生のオリエンテーションで教学組織を紹介し、各学年にプログラム評価委員、カリキュラム委員がいることを紹介し、意見があれば委員を通して述べてもらうことを説明する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発すべきである。(Q 7.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ プログラム評価委員会とカリキュラム委員会が連携し、フィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発する体制を整えた。

改善のための示唆

- ・ 学生と教員からのフィードバック情報を活用して教育プログラムを開発するために、プログラム評価委員会は適切な評価と提言を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ プログラム評価委員会を開始し、医学教育分野別評価の外部評価報告書を基に、九大医学部医学科の課題を共有した。
- ・ 卒業生についてもデータが収集できるよう、今後も連絡がつくメールアドレスの提供を依頼した。

今後の計画

- ・ プログラム評価委員会にて課題を抽出し、対応を検討し教務委員会に報告・提言する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準: 部分的適合

医学部は、

- 以下の項目に関して、学生と卒業生の実績を分析しなければならない。
 - 使命と意図した学修成果(B 7.3.1)
 - カリキュラム(B 7.3.2)
 - 資源の提供(B 7.3.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 6年次学生に卒業時アンケートを行い、教育資源の利用度や満足度について情報を収集している。

改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析するために医学教育IR室会議を定期開催し、以下の活動を行った。
 - ① 現在収集可能な教学データの収集を開始した。
 - ② データ解析ができるよう、データの匿名化作業を開始した。
 - ③ 医学科の教育データを扱うにあたり、ガイドラインの範囲内で業務に利用する際の学生同意取得について確認した。
 - ④ 診療参加型臨床実習の充実が課題であることから、臨床実習Ⅰ、Ⅱについて2019～2021年の経験医行為数を比較し確認した。
 - ⑤ プログラム評価に関して、何をいつどのような目的でデータを取るのかに関するモニタリングプランの作成を開始した。
- ・ 卒業生についてもデータが収集できるよう、今後も連絡がつくメールアドレスの提供を依頼した。
- ・ 今後計画的にIR活動が教学組織のPDCAサイクルに寄与できるように活動工程表を作成した。
- ・ 2022年度の卒業時アンケートを実施し、医学教育IR室、プログラム評価委員会またカリキュラム委員会にて意見交換を行った。
 - ① 使命と学修成果の内容に関しては適切な内容であるとの意見が確認できた。
 - ② 自習室利用に関する複数の意見があった。
 - ③ 基幹教育における専攻教育の在り方に関する多くの意見があった。

今後の計画

- ・ 学修目標に対する達成度について情報を収集し、医学教育IR室を活用しながら解析を行ない、プログラム評価委員会においてカリキュラムの実績について外部有識者や学生も交えて議論を行い、教務委員会に提言を行う。
- ・ 医科学研究者の育成も九大医学科使命の一つでもあることより、MD-PhDコース学生のアンケートなどの評価も行ないつつ対策を検討する。
- ・ MD-PhDコースを選択する学生に対する、経済的サポート、博士号取得後のサポートを充実させる。
- ・ 卒業生についての情報収集については、プログラム評価委員会に卒業生をメンバーに加えて情報収集を図るとともに、臨床教育研修センターとも連携を進めていく。
- ・ 資源の提供に関しては、教務委員会、医学教育学講座、医学部同窓会が連携して自己学修環境の整備を進めていく。

- ・ 卒前ならびに卒業生の参画するカリキュラム委員会やプログラム評価委員会などの機会も活用して、資源の提供に関する課題を見出すように努める。
- ・ 学生に対する資源の提供をより効果的なものとするために継続的に学生と卒業生の実績を分析していく。卒業生の業績調査については、臨床教育研修センターや医学部同窓会との連携を介して、アンケート調査や意見交換の機会を増やし、課題についてはプログラム評価委員会などで検討を行っていく。
- ・ モニタリングプランの精緻化を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧
- ・ 資料17: 医学教育IR室モニタリングプラン

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 以下の項目に関して、学生と卒業生の実績を分析するべきである。
 - 背景と状況(Q7.3.1)
 - 入学時成績(Q 7.3.2)
- 学生の実績の分析を使用し、以下の項目について責任がある委員会へフィードバックを提供すべきである。
 - 学生の選抜(Q 7.3.3)
 - カリキュラム立案(Q 7.3.4)
 - 学生カウンセリング(Q 7.3.5)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 学生と卒業生について、背景と状況、入学時成績に関して、実績を分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績の分析を使用して、学生の選抜、カリキュラム立案について責任がある委員会へフィードバックを提供することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 学生と卒業生について、背景と状況、入学時成績に関して、実績を分析するために医学教育IR室会議を定期開催し、以下の活動を行った。
 - ① 現在収集可能な教学データの収集を開始した。
 - ② データ解析ができるよう、データの匿名化作業を開始した。(現在継続中)
 - ③ 医学科の教育データを扱うにあたり、ガイドラインの範囲内で業務に利用する際の学生同意取得について確認した。
 - ④ 診療参加型臨床実習の充実が課題であることから、臨床実習Ⅰ、Ⅱについて2019～

2021年の経験医行為数を比較し確認した。

⑤ プログラム評価に関して、何をいつどのような目的でデータを取るのかに関するモニタリングの作成を開始した。

- ・ 卒業生についてもデータが収集できるよう、今後も連絡がつくメールアドレスの提供を依頼した。
- ・ 今後計画的に教学組織のPDCAサイクルが進むように医学教育IR室、プログラム評価委員会、カリキュラム評価委員会の活動工程表を作成した。
- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書をプログラム評価委員会で報告し、九大医学科の教育に関する課題を共有した。

今後の計画

- ・ 2020年度から入学試験に面接試験も導入した。今後、医学教育IR室による面接試験結果、高校での生物学修の有無、などについても解析を進めていく。
- ・ 入学時成績と入学後学修成果などとの相関について医学教育IR室などで解析を進め、プログラム評価委員会などでの議論を経て、教務委員会やカリキュラム委員会にてアドミッション・ポリシーや入試システム(受験科目、配点等)の改善を継続的に行っていく。入学時成績と九大医学科卒業時アウトカムと学修目標の達成との相関についても評価していく。
- ・ 医学教育IR室における在学生の実績(成績、学修状況、生活状況など)および卒業生の実績を分析して、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会にフィードバックし、今後の学生選抜に反映させる体制の構築を進めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧
- ・ 資料17: 医学教育IR室モニタリングプラン
- ・ 資料31: プログラム評価委員会活動工程表
- ・ 資料32: カリキュラム委員会活動工程表

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準: 適合

医学部は、

- 教育プログラムのモニタと評価に教育に関わる主要な構成者を関与させなければならない。(B 7.4.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教員と学生に加え、プログラム評価委員会に他大学の教育専門家、医師会関係者、行政関係者、一般市民、研修医が参画している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書をプログラム評価委員会で報告し、九大医学科の教育に関する課題を共有した。

今後の計画

- ・ 九大医学科使命を実現させるため、教員や学生が共同して、カリキュラムのモニタについてプログラム評価委員会を中心に実施していく。
- ・ 医学教育IR室での解析結果を活用し、プログラム評価委員会での意見交換を継続的に行う。必要に応じて本委員会への新たな外部委員も検討していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料33:プログラム評価委員会委員名簿
- ・ 資料34:カリキュラム委員会委員名簿

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 広い範囲の教育の関係者に、
 - 課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可するべきである。(Q 7.4.1)
 - 卒業生の実績に対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.2)
 - カリキュラムに対するフィードバックを求めるべきである。(Q 7.4.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 九州大学病院関連病院長会議や臨床教授を通じて、卒業生の動向や評価など、卒業生の実績に関する情報の収集を開始した。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、課程および教育プログラムの評価の結果を閲覧することを許可することが望まれる。
- ・ 広い範囲の教育の関係者に、卒業生の実績に対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を九大医学部の医学部ホームペ

ージに掲載した。

今後の計画

- ・ 医学科カリキュラムについてのフィードバック情報を継続的に収集し適切に分析し、報告書やホームページを通じて関係者に情報提供していくことで、より早期のプログラム改善、開発に繋げていく。
- ・ 医学教育IR室での解析データを基に、プログラム評価委員会において特に学生、本学卒業生や学外有識者の委員から積極的な提案を募り、カリキュラムのさらなる改善や開発を目指しつつ、より高い透明性が確保できるように努める。
- ・ 卒業生の実績に対してより広い教育の関係者に多面的な意見を求めていく。
- ・ それらの意見はカリキュラム委員会、プログラム評価委員会、教務委員会、教授会にフィードバックを行い、より効果的なプログラムの作成に活かしていく。それらを継続的な改善へ活かせるよう取り組むとともに、組織的にフィードバックを行う仕組みを充実させる。
- ・ プログラム評価委員会では、教員と教育を受ける立場の各学年の学生代表、医学教育学分野の教員、行政(福岡県医療指導課)、患者代表、医学教育に関する学外の専門家等が参加することで広く意見を求めているが、さらに広い範囲の教育の関係者からフィードバックを求めていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3: 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4: 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料6: 医学部ホームページ公開画面

8. 統轄および管理運営

概評

九州大学は学府と研究院に分離された大学院重点化がなされ、学部により学部学生が教育されている。医学教育改革のために委員会組織が整備された。医学部の教育改革の一環としてシミュレーション教育が整備された。教務担当職員は、学内研修や学外の研修の受講を通じて能力向上に努めている。事務系職員において、業務の改善・向上を組織的に支援することを目的とした「業務遂行支援評価システム」を導入している。

導入期の医学教育に対して医学部の権限と責務を明らかにし、基幹教育院と医学部のより積極的な連携を図るべきである。委員会組織の機能と責任範囲を明確にしたうえで、実質的に機能させることが望まれる。医学教育の進歩に対応した職員を育成し配置すべきである。

8.1 統轄

基本的水準： 適合

医学部は、

- その統轄する組織と機能を、大学内での位置づけを含み、明確にしなければならない。(B 8.1.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 九州大学は学府と研究院に分離された大学院重点化がなされ、学部により学部学生が教育されている。

改善のための助言

- ・ 導入期の医学教育に対して医学部の権限と責務を明らかにし、基幹教育院と医学部のより積極的な連携を図るべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 卒業時アンケートの結果から、基幹教育における専攻教育の在り方が課題として浮かび上がり、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会にて対応について議論した。

今後の計画

- ・ 基幹教育院と医学部のより積極的な連携を図っていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1: 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2: 第4回プログラム評価委員会議事録

- ・ 資料3:第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4:第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5:第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 部分的適合

医学部は、

- 統轄する組織として、委員会組織を設置し、以下の意見を反映させるべきである。
 - 主な教育の関係者(Q 8.1.1)
 - その他の教育の関係者(Q 8.1.2)
- 統轄業務とその決定事項の透明性を確保するべきである。(Q 8.1.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育改革のために委員会組織が整備された。

改善のための示唆

- ・ 委員会組織の機能と責任範囲を明確にすることが望まれる。
- ・ 新たに設置された教育関連の委員会を実質的に機能させることが望まれる。
- ・ 教授会の決定事項の透明性を確保することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 教務委員会、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会、医学教育IR室会議を開催した。

今後の計画

- ・ カリキュラム委員会ならびにプログラム評価委員会での意見を反映させて、カリキュラムの評価や改善の作業を円滑に進めていく。
- ・ 教育関連の委員会が実質的に機能しているか教授会にてモニタする。
- ・ 社会のニーズの変化に合わせてカリキュラム委員会、プログラム評価委員会の構成員を含めて継続的に見直しを行い、カリキュラムの向上につなげていく。
- ・ 透明性の確保の観点から社会の情勢に応じて閲覧の基準を再検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2:第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3:第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4:第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5:第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料13:令和4年度医学教育IR室年報

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準： 適合

医学部は、

- 医学教育プログラムを定め、それを運営する教学のリーダーシップの責務を明確に示さなければならない。(B 8.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学部長が医学部における教育に関して、権限と責任を持っている。

改善のための助言

- ・ 医学部長のほか、教務委員長、カリキュラム委員長、その他教務に関係する委員会の長の権限と責務を明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 教務委員会、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会、医学教育IR室会議を開催した。
- ・ 医学部長を委員長として、長期的な将来構想を念頭にした計画的な教員配置を検討するための委員会を組織した(将来計画委員会)。

今後の計画

- ・ 医学部長、教務委員長、カリキュラム委員長、プログラム評価委員会、医学教育IR室長、その他教務に関係する委員会の長の権限と責務を明確化する。
- ・ カリキュラムを継続的に改善していくために各委員会が連携して教育のリーダーシップを発揮していく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5: 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報
- ・ 資料22: 九州大学大学院医学研究院、医学系学府及び医学部将来計画委員会内規

質的向上のための水準： 部分的適合

医学部は、

- 教学におけるリーダーシップの評価を、医学部の使命と学修成果に照合して、定期的に行うべきである。(Q 8.2.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 医学部長の教学におけるリーダーシップの評価を行う仕組みを整えることが望まれる。

- ・ そのうえで、医学部の使命と学修成果に照合したリーダーシップの評価を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 立候補者は所信表明を行い、公正な選挙にて医学部長の選任を行った。

今後の計画

- ・ 医学部の使命と学修成果に照合したリーダーシップの評価を行うことを検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料35:医学研究院長候補者選挙日程

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準：適合

医学部は、

- カリキュラムを遂行するための教育関係予算を含み、責任と権限を明示しなければならない。(B 8.3.1)
- カリキュラムの実施に必要な資源を計上し、教育上の要請に沿って教育資源を分配しなければならない。(B 8.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学部の教育改革の一環としてシミュレーション教育が整備された。

改善のための助言

- ・ 基幹教育院での1年次の教育における教育関係予算を含み、医学部の責任と権限を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 円滑な教育に必要な資源について検討し、予算配分した。

今後の計画

- ・ 基幹教育院での1年次の教育における教育関係予算を含み、医学部の責任と権限を検討する。
- ・ カリキュラムを遂行するための教育関係予算に関しては、必要に応じて定期的な点検を行い、改善を図る。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料36:九州大学大学院医学研究院予算管理委員会内規及び令和4年度-医学研究院予算配分方針

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- 意図した学修成果を達成するために、教員の報酬を含む教育資源配分の決定について適切な自己決定権をもつべきである。(Q 8.3.1)
- 資源の配分においては、医学の発展と社会の健康上の要請を考慮すべきである。(Q 8.3.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 病院教員を含め、十分な数の教員が医学教育にあたっている。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 円滑な教育に必要な資源について検討し、予算配分した。

今後の計画

- ・ 公平性の確保と共に教員のモチベーション向上による学生の学修成果達成を図るために、教員活動評価の改善を検討する。
- ・ より高い教育成果を発揮するために、教育資源配分についての検証を行い、今後の配分決定に反映させる。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料36:九州大学大学院医学研究院予算管理委員会内規及び令和4年度-医学研究院予算配分方針

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合

医学部は、

- 以下を行うのに適した事務職員および専門職員を配置しなければならない。
 - 教育プログラムと関連の活動を支援する。(B 8.4.1)
 - 適切な運営と資源の配分を確実に実施する。(B 8.4.2)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医療系学部一括で事務職員、専門職員を配置している。

改善のための助言

- ・ 医学教育の進歩に対応した職員を育成し配置すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象医学科・生命科

学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。

今後の計画

- ・ カリキュラムの変更等に伴う業務が増加傾向にあり、医学教育の進歩に対応した職員を育成し配置を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1:医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2:第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3:第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4:第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5:第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録

質的向上のための水準: 適合

医学部は、

- 定期的な点検を含む管理運営の質保証のための制度を策定し、履行すべきである。(Q 8.4.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教務担当職員は、学内外の研修の受講を通じて能力向上に努めている。
- ・ 事務系職員において、業務の改善・向上を組織的に支援することを目的とした「業務遂行支援評価システム」を導入している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 共用試験の公的化に対し、近隣の大学と協力し認定標準模擬患者の試験と事前の講習会を実施した。

今後の計画

- ・ 共用試験公的化に対し必要な講習会の案内と支援を行う。
- ・ 各種自己点検・評価の結果得られた課題や改善点等を整理するとともに、それらの解決に向けて新たな方策の策定と実行により自主的・自律的な改革・改善を行う。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料37 : 認定標準模擬患者_運営要領(抜粋)

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準: 適合

医学部は、

- 地域社会や行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流を持たなければならない。(B 8.5.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 福岡県の地域医療再生計画に基づき、福岡県と建設的に交流した結果、寄付講座として周産期・小児医療学講座を設置している。

改善のための助言

- ・ 福岡県のみならず、より広域の行政の保健医療部門や保健医療関連部門と建設的な交流をすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 現在の交流活動を継続した。

今後の計画

- ・ 現在の交流を維持・拡大する。
- ・ 今後必要に応じて、現在交流機会のない地域社会や行政機関の保健医療部門や保健医療関連部門についても、新たな連携に取り組んでいく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料38 : 令和4年度クリニカルクラークシップ地域医療実習報告会及び学外実習施設報告

質的向上のための水準： 適合

医学部は、

- スタッフと学生を含め、保健医療関連部門のパートナーとの協働を構築すべきである。
(Q 8.5.1)

特記すべき良い点(特色)

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 保健医療関連部門のパートナーや学生の意見を反映させながら、教育活動で協働できる医療機関のさらなる拡充が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 現在の交流活動を継続した。

今後の計画

- ・ 教育活動で協働できる医療機関のさらなる拡充の検討を開始する。
- ・ 現行の実習を維持しつつ、プログラムの改善に向けて、保健医療関連部門のパートナーや学生などの意見も反映させるように努める。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料38 : 令和4年度クリニカルクラークシップ地域医療実習報告会及び学外実習施設報告

9. 継続的改良

概評

2007年度、2014年度ならびに2021年度に大学改革支援・学位授与機構(旧大学評価・学位授与機構)による機関別認証評価を受けた。また、今回の医学教育分野別評価によって医学教育の自己点検評価を行い、第三者評価を受け、継続的に改良を行っている。学修成果基盤型教育への転換を目指し、医学教育改革の充実を推進している。

今後、各種委員会をはじめとして教学組織の実質的な充実を図り、PDCAサイクルを通じて継続的な改良を進めることが期待される。

基本的水準： 適合

医学部は、活力を持ち社会的責任を果たす機関として

- 教育(プログラム)の教育課程、構造、内容、学修成果/コンピテンシー、評価ならびに学修環境を定期的に見直し、改善する方法を策定しなくてはならない。(B 9.0.1)
- 明らかになった課題を修正しなくてはならない。(B 9.0.2)
- 継続的改良のための資源を配分しなくてはならない。(B 9.0.3)

特記すべき良い点(特色)

- ・ 医学教育の継続的な改良のための組織が整備された。
- ・ 医学教育改革として5項目(アウトカム基盤型カリキュラムの構築、診療参加型臨床実習の充実、教学組織の見直し、入学試験改革、シミュレーション教育の充実に向けての準備)を掲げ、カリキュラムの改良に取り組んでいる。

改善のための助言

- ・ 整備された委員会を実質的に機能させ、PDCAサイクルを通じて、医学教育を継続的に改良すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 2022年度受審した医学教育分野別評価の外部評価報告書を、全教員対象の医学科・生命科学科FD、プログラム評価委員会、カリキュラム委員会、教務委員会、教授会で報告し、九大医学科の教育に関する現在の到達と今後の課題について教員・学生・外部有識者・患者代表とともに共有した。
- ・ 教務委員会、カリキュラム委員会、プログラム評価委員会、医学教育IR室会議を開催した。

今後の計画

- ・ 外部有識者、在学生、卒業生が参画するカリキュラム委員会、プログラム評価委員会に加え、医学教育IR室が設置されたことで、カリキュラムの定期的な改善や評価を進めていく。
- ・ 教学組織によるPDCAサイクルが軌道にのるよう教務委員会を中心となりモニタする。
- ・ 医学教育IR室とプログラム評価委員会による課題抽出を継続しつつ、教務委員会への報告・提言を介して、カリキュラム委員会などで改善案などについて検討していく。
- ・ 社会を取り巻く様々な状況変化に弾力的に対応し、柔軟かつ適切に医療資源の配分を行っていく。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料1 : 医学科・生命科学科FD
- ・ 資料2 : 第4回プログラム評価委員会議事録
- ・ 資料3 : 第6回カリキュラム委員会議事録
- ・ 資料4 : 第12回教務委員会議事要旨
- ・ 資料5 : 第274回医学科・生命科学科会議(教授会)記録
- ・ 資料13: 令和4年度医学教育IR室年報

質的向上のための水準: 評価を実施せず

医学部は、

- 教育改善を前向き調査と分析、自己点検の結果、および医学教育に関する文献に基づいて行うべきである。(Q 9.0.1)
- 教育改善と再構築は過去の実績、現状、そして将来の予測に基づく方針と実践の改定となることを保証するべきである。(Q 9.0.2)
- 改良のなかで以下の点について取り組むべきである。
 - 使命や学修成果を社会の科学的、社会経済的、文化的発展に適応させる。(Q 9.0.3) (1.1参照)
 - 卒後の環境に必要とされる要件に従って目標とする卒業生の学修成果を修正する。修正には卒後研修で必要とされる臨床技能、公衆衛生上の訓練、患者ケアへの参画を含む。(Q 9.0.4) (1.3参照)
 - カリキュラムモデルと教育方法が適切であり互いに関連付けられているように調整する。(Q 9.0.5) (2.1参照)
- 基礎医学、臨床医学、行動および社会医学の進歩、人口動態や集団の健康／疾患特性、社会経済および文化的環境の変化に応じてカリキュラムの要素と要素間の関連を調整する。最新で適切な知識、概念そして方法を用いて改訂し、陳旧化したものは排除されるべきである。(Q 9.0.6) (2.2~2.6参照)
- 目標とする学修成果や教育方法に合わせた評価の方針や試験回数を調整し、評価方法を開発する。(Q 9.0.7) (3.1と3.2参照)
- 社会環境や社会からの要請、求められる人材、初等中等教育制度および高等教育を受ける要件の変化に合わせて学生選抜の方針、選抜方法そして入学者数を調整する。(Q 9.0.8) (4.1と4.2参照)
- 必要に応じた教員の採用と教育能力開発の方針を調整する。(Q 9.0.9) (5.1と5.2参照)
- 必要に応じた(例えば入学者数、教員数や特性、そして教育プログラム)教育資源の更新を行う。(Q 9.0.10) (6.1~6.3参照)
- 教育プログラムのモニタと評価の過程を改良する。(Q 9.0.11) (7.1~7.4参照)
- 社会環境および社会からの期待の変化、時間経過、そして教育に関わる多方面の関係者の関心に対応するために、組織や管理・運営制度を開発・改良する。(Q 9.0.12) (8.1~8.5参照)

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育活動、改善内容

- ・ 前向き調査を実施するため、卒業生に対し卒業後も使用するメールアドレスについて収集した。

今後の計画

- ・ 6年毎の中期計画に基づき、年度毎に教育計画を立案しており、これを継続していく。
- ・ 九大医学科におけるカリキュラム委員会、プログラム評価委員会、医学教育IR室を活用しながら、将来の予測に基づく教育の改善と再構築を進めていく。
- ・ 教育の改善と再構築のための医学教育IR室での分析を活かして PDCA サイクルの定着を図る。
- ・ 今後も医学・医療の発展や社会情勢の変化に対応して九大医学科使命や九大医学科卒業時アウトカムと学修目標の定期的な見直しを行っていく。
- ・ 今後、カリキュラム委員会およびプログラム評価委員会にて定期的に学生の試験データ等を基に学生の評価方法について議論し、改善を提言する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料16: 令和4年度医学科卒業生 進路状況及び卒業後の連絡先一覧